

第5次総合振興計画事務事業評価シート(様式1)

提出日	R4.6.23		
担当課名	にぎわい創出課		
担当グループ名	和紙普及宣伝グループ		
担当者名			
(2)事業種別(新規・継続)	継続	(3)事業性格(政策・一般)	政策事業
(5)予算・財源等の別			
(1)会計区分	一般会計		
(2)財源区分	町単独		
(3)予算科目	款	7	項 1 目 2
(4)予算事業名	小川町和紙体験学習センター管理運営事業費		
(7)総合戦略			
(1)総合戦略(該当事業名)	無		
(3)事業期間	開始	平成11年	4月から
	終了	未定	年 月まで

1 事業概要			
(1)事業名	小川町和紙体験学習センター管理運営事業費		
(4)第5次総振での位置づけ			
(1)基本目標	活力ある産業のまち(産業の振興)		
(2)大項目	工業		
(3)中項目	伝統産業の振興		
(4)施策			
(5)施策コード	6.3.3.0	掲載ページ	103 ページ
(6)実施根拠			
(1)事務分類(自治・受託)	自治事務		
(2)根拠法令			
(3)事業期間	開始	平成11年	4月から
	終了	未定	年 月まで

2 事業の目的・対象及び内容			
(1)目的(何のために行うか)		(3)手段(内容・どのような取り組みか)	
<p>当町の伝統産業である手漉き和紙の体験及び学習の機会を設け、技術伝承と普及宣伝を図るため。また、和紙製造に携わる職人等の施設利用により、地域経済の振興及び向上を図るため。</p>		<p>設立当初の姿を残す和紙体験学習センター(旧埼玉県製紙工業試験場)を保存活用し、和紙の体験学習や解説・展示を行う。また、職人等に対し和紙製造に必要な設備の利用に供する。</p>	
(2)対象(誰に対して、何に対して行うか)		(4)成果イメージ(どのような状態になることを目指すか)	
<p>町内外の一般・観光客 町内の職人</p>		<p>ユネスコ無形文化遺産登録された細川紙を継承する和紙のふるさと小川町として、全国・世界に誇る和紙の拠点施設としてアピールできる。また、和紙の学習、研修、製造に供することにより、後継者育成や産業振興につながる。</p>	
対象数	センター利用者数	単位	人

(5)事業を取り巻く環境(社会環境、町民ニーズ等)、団体、議会等からの要望など

もとは和紙製造事業者や研究者を対象とした専門的な施設であったが、現在は小川町和紙体験学習センターとして地権を使った専門的な体験研修を行う施設として認知され、当施設の利用をあえて希望する声が聞こえるようになった。また、戦前に建築された貴重な施設としての文化財的価値も注目されている。

(6)SDGsへの貢献



4 質の高い教育をみんなに



8 働きがいも経済成長も



12 つくる責任 つかう責任

3 事業のコスト(実績・予算・決算) (単位:千円)						
(1)事業(内容) 小川町和紙体験学習センター管理運営事業費						
項目	決算・予算年度	H30年度決算	R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度予算
(2)事業費内訳	報酬	0	0	3,741	3,202	1,880
	報償費	0	0	0	244	0
	需用費	2,515	1,875	2,850	1,938	1,828
	役務費	274	274	321	321	323
	委託料	0	4,080	28	55	985
	その他	5,836	4,847	782	1,129	567
	直接事業費合計	8,625	11,076	7,722	6,889	5,583
(3)財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他特定財源	1,964	1,372	1,002	1,236	1,000
	一般財源	6,661	9,704	6,720	5,653	4,583
	合計	8,625	11,076	7,722	6,889	5,583
(4)補助金名						
(5)人件費						
	投入職員数	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
	年間人件費	6,373	6,173	6,111	6,102	6,244
(6)総事業費		14,998	17,249	13,833	12,991	11,827
	サービス量(人)	1,304	1,718	1,388	2,290	2,500
	サービス単価	11.5	10.0	10.0	5.7	4.7
	(単位)	千円/利用者1人当たり				

4 指標の検証(活動指標・成果指標)		小川町和紙体験学習センター管理運営事業費				
指標名		単位	R2年度決算	R3年度決算	R4年度予算積算	
(1)活動指標(実施した事業の量:回数、延長、面積等)						
指標名	小川町和紙体験学習センター利用者数	目標値	人	2,500	2,500	2,500
		実績値	人	1,388	2,290	
		達成率	%	55.5	91.6	
	手漉き和紙体験者数	目標値	人	1,000	1,000	1,000
		実績値	人	334	660	
		達成率	%	33.4	66.0	
(2)成果指標(実施した結果として得られた成果の量と達成度:人数、世帯数、件数、団体数、コスト指標等)						
指標名	工業事業所数(総振目標指標p103) R7年度目標値 90件 ※経済構造実態調査の一部として実施、未公表	目標値	件	90	90	90
		実績値	件	78(工業統計調査)	- ※	
		達成率	%	86.7	-	
	入込観光客数(総目標指標p106) R7年度目標値 780千人/年	目標値	千人	780	780	780
		実績値	千人	384	495	
		達成率	%	49.2	63.5	
(3)その他指標に現れない成果						
5 事業評価						
(1)項目別評価						
評価項目		評価		評価理由	評価した理由を選択してください。	
必要性	事業の必要性	1	1 必要性は高い	2	1 事業の実施が関係法令等で定められている	
			2 どちらともいえない		2 住民や団体など外部から要望・要請が多い事業である	
			3 必要性が低い		3 その他()	
妥当性	実施主体の妥当性	1	1 妥当である	2	1 事業の主体が関係法令等で定められている	
			2 どちらともいえない		2 民間では事業を行っておらず、行政が主体となるべき事業である	
	3 妥当性が低い		3 その他()			
手段の妥当性	1	1 妥当である	2	1 事業を行うのに民間活力(企業、NPO、ボランティアなど)を活用している		
		2 どちらともいえない		2 他に有効な代替手段が見当たらない		
		3 妥当性が低い		3 その他()		
効率性	コスト効率性 人員の効率性	1	1 効率的である	2	1 サービス単価は減少している	
			2 どちらともいえない		2 サービス単価を維持している	
			3 効率性が低い		3 その他()	
公平性	受益者の偏り	1	1 偏りはない	2	1 公平に分配されている	
			2 どちらともいえない		2 おおむね公平に分配されている	
			3 偏りがある		3 その他()	
有効性	成果の向上	2	1 成果が上がっている	3	1 成果指標は、目標値より実績値が上回っている	
			2 どちらともいえない		2 成果指標は、前年度より向上している	
			3 成果が下がっている		3 その他(コロナ禍ではあるが利用者数に回復の兆しがある。)	
進捗度	事業の進捗	2	1 順調に進んでいる	2	1 年度内に予定した事業は完了した	
			2 概ね順調である		2 年度内に予定した事業の8割以上は完了した	
			3 あまり順調に進んでいない		3 その他()	
(2)総合評価(上記結果を踏まえて、問題点や課題を記載してください。)						
町内等において和紙を生業として営んでいる職人や研修生の作業場(工房)としては重要な場所である。ここがなくなることは和紙産業の廃業、衰退、消滅につながる恐れがあるが、施設の老朽化が著しい。戦前の製紙工業試験場の建物が群として現存しているのは全国唯一であり、その保存活用が課題である。また、令和元年8月に「和紙の有効活用による町の活性化計画」が策定された。その中で和紙体験学習センターについては、和紙産業の技術や用具が継承され、後継者育成ができる施設への整備を検討するとされており、整備方法等を早急に検討し、決定する必要がある。						
6 事業の方向性の判断		1 拡充 2 現状維持 3 縮小・統廃合				
評価主体	(1)一次評価 (担当課長)	(2)二次評価 (政策推進課長)	(3)最終評価 (町長)			
評価	1	2	2			
説明	早期に施設の方向性を決定し、和紙の事業継承に繋げる施設として、整備を検討する。	他の施設とのバランスを考慮し、施設の方向性を継続して検討する必要がある。	和紙振興のため、施設の方向性を引き続き検討する。			